

重度難聴児の初期言語におけるコミュニケーション 機能の評価法の開発

平成12～14年度科学研究費補助金研究〔基盤研究(C)(2)〕

(課題番号 12610242)

研究成果報告書

平成15年3月

研究代表者 鷺尾 純一

筑波大学 心身障害学系

はしがき

本冊子は、「平成12年度～平成14年度科学研究費補助金 基盤研究(C)(2)」による「重度難聴児の初期言語におけるコミュニケーション機能の評価法の開発」の研究成果報告書である。

難聴児の言語臨床の領域においては、早期指導とコミュニケーションの問題でこれまで絶えず新しい課題が投げかけられてきた。近年の新生児聴覚検査、人工内耳の先天性聴覚障害児への適用、幼児段階での手話の積極的使用がその例である。新生児聴覚検査を厚生労働省が試行事業としてスタートさせて以来、新生児期に発見される例が確実に増えてきている。このような状況の中では、この領域に携わる専門家が、教育、福祉、医療にまたがり連携して課題に取り組んでいかなければならない。本研究を組織した分担者、協力者はそれぞれ違った立場にあって難聴児の言語臨床に係わってきた。研究を進める際にも同時に現在のさまざまな課題について情報を交換してきた。本報告書ではその成果の一部を形にすることができた。内容的には不備な点も多々あるが、今後の難聴児言語臨床の発展のために多少なりとも役に立てば幸いである。

平成15年3月

研究代表者 鷲尾純一

[研究組織]

研究代表者

鷲尾 純一 (筑波大学 心身障害学系 助教授)

研究分担者

斎藤 佐和 (筑波大学 心身障害学系 教授)

廣田 栄子 (国際医療福祉大学 言語聴覚障害学科 教授)

西澤 弘行 (常磐大学 人間科学部 助教授)

研究協力者

中村 公枝 (国立身体障害者リハビリテーションセンター学院 教官)

内山 勉 (富士見台聴こえとことばの教室)

[研究経費]

平成12年度	2, 100	千円
平成13年度	600	千円
平成14年度	1, 000	千円
合計	3, 700	千円

目次

はしがき

I. はじめに ー本研究の意義と目的ー	1
II. 難聴児における初期言語の評価法の開発	3
III. 重度難聴児のコミュニケーション機能の発達 ー人工内耳を装着した事例の分析ー	16
IV. コミュニケーション障害児の療育支援方法の開発 ー都市部と都市周辺部の社会的環境の比較検討ー	55
V. 心の理論課題検査による難聴児の社会認知能力の測定	69